

「見逃すな危険の兆候 安全確認、
高める意識 支える考動」

87期 休業災害：22件 不休災害：133件 工事事故：43件

◇一人親方の休業災害：5件 不休災害：19件 交通事故2件

災害-一人親方	飛来・落下	肋骨骨折	休業
24/3/7 (木) 15:00	建築	組積工	36歳

2名で外壁コーナーの幅30cmのALCを上2.8m、下3.0mに分割して取付けていた。1名が間仕切り裏側へ回り、被災者でALCの建ちを調整していた。下側のALCはマンリキで固定されていたが、上側のALCは固定されていなかった。下側のALCを調整するためにずらした際に、上側のALCがバランスを崩し、被災者の足の上に倒れてきた。



繰り返し作業の中で確認し合うことが形骸化？仲間を怪我させることになる！

災害-参考	墜落・転落	怪我なし	—
24/3/15 (金) 14:50	土木	普通作業員	50歳

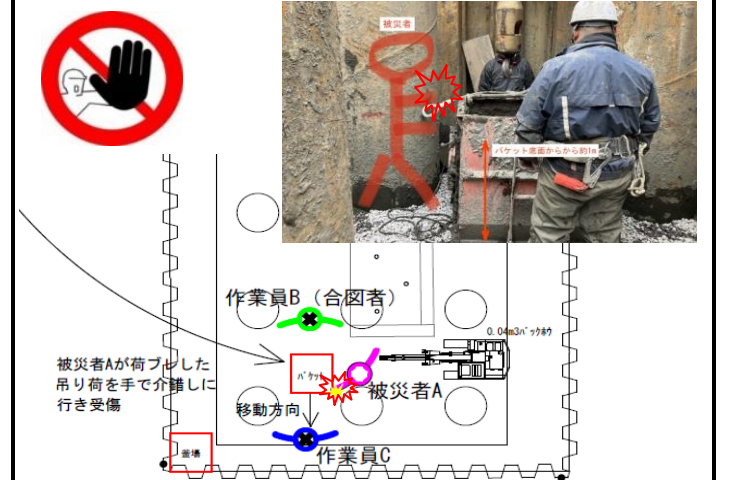
橋梁工事の仮設棧橋設置工事で被災者はボルトを間配りするため両手で持って架設通路を移動中に鋼材を片付けていた作業員をかわそうとしたときバランスを崩して河川に墜落した。設置されていた親綱に安全帯を掛けていたため河川に浸かった状態の中吊りとなった。怪我は無し。



墜落災害防止対策は、手すり・囲いを設けることが最優先、やむを得ず設置困難な場合は、親綱を張り安全帯の使用

災害-一人親方	クレーン等	左手首骨折	不休
24/3/21 (木) 11:30	土木	普通作業員	55歳

25tラフタークレーンを使用して立孔内に土砂バケツを使用し、碎石を投入していた。介錯ロープを使用し高さ1.0mまで荷下ろして、無線合図で荷下ろし位置へ移動後バケツを手で介錯した際に、既製杭と土砂バケツの間に腕が挟まれて左手首を挟まれた。



吊り荷の下に入らず荷振れによる挟まれを危険予知して立ち位置・介錯の手の位置を決めよう

災害-150	墜落・転落	頸椎・胸椎骨折	休業
24/3/25 (月) 9:10	建築	板金工	36歳

2Fブラケット足場上で墨だし・金物取付作業を行っていた。フルハーネスは外部足場手摺にかけていたが移動する際に取り外し、作業床を踏み外して2Fの床(2.3m)へ墜落した。



手すりの無いブラケット足場では親綱を張り、移動時も安全帯を外さない！「安全帯使用」の表示も忘れずに！

災害-151	転倒	左手首骨折	休業
24/3/25 (月) 16:30	建築	左官工	20歳

腰壁と柱根巻のコンクリートを打設して天端押えを被災者が行った。建屋の内側に移動しようとした。差筋を右手で避けながら通り抜けようとしたがバランスを崩し、倒れて捨てCON法面に左手をついた。



至るところに危険が潜んでいる！差し筋を横断するスペースを確保し、養生と表示を。

墜落災害を無くすことが、労働災害を減少させる！

87期は休業災害が大幅に増加してしまいましたが、その第一要因は墜落災害が増加したことです。墜落災害の原因の多くは元請と業者の安全管理面の不足があげられます。

- 【元請の役割】
- ①法令・社内基準に基づき安全帯が不要な墜落防止措置設備を充実する
 - ②やむを得ず上記が困難なときは、安全帯使用ルールを周知する
- 【業者の役割】
- ①施工計画に基づいた作業手順書にリスク低減措置を盛り込み遵守させる
 - ②職長は作業手順書通りに墜落防止措置が行われているか監視する

◆作業者が作業ルールを忘れていたときは、『安全一声運動』！全員で実践しましょう！
「危ないよ！」「大丈夫？」の一言が仲間を怪我から守ります。



◆ 墜落災害の発生状況

事業主他含む

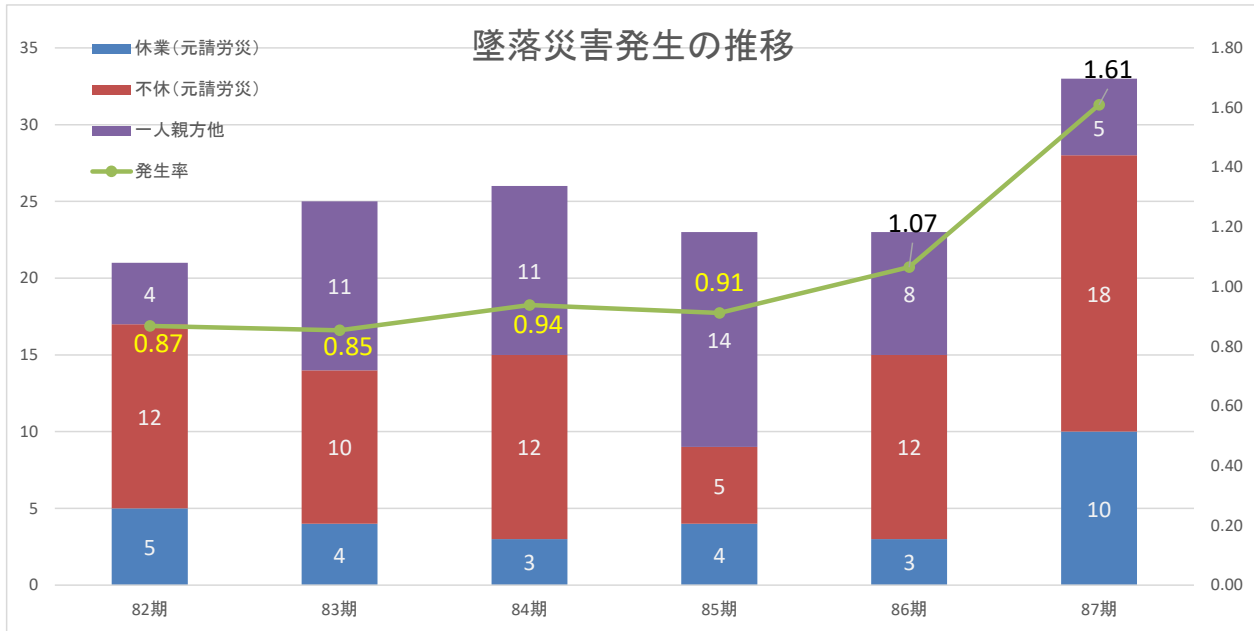
87期		北海道	東北	首都圏	名古屋	北陸	関西	中四国	九州	合計
	件数	2	3	14	2	3	2	2	5	33
	うち休業	1	2	5	1	3	1		1	14
	労働時間	857	1469	9514	2614	1738	2974	1523	1790	22479
	発生率	2.33	2.04	1.47	0.77	1.73	0.67	1.31	2.79	1.47

休業	14
----	----

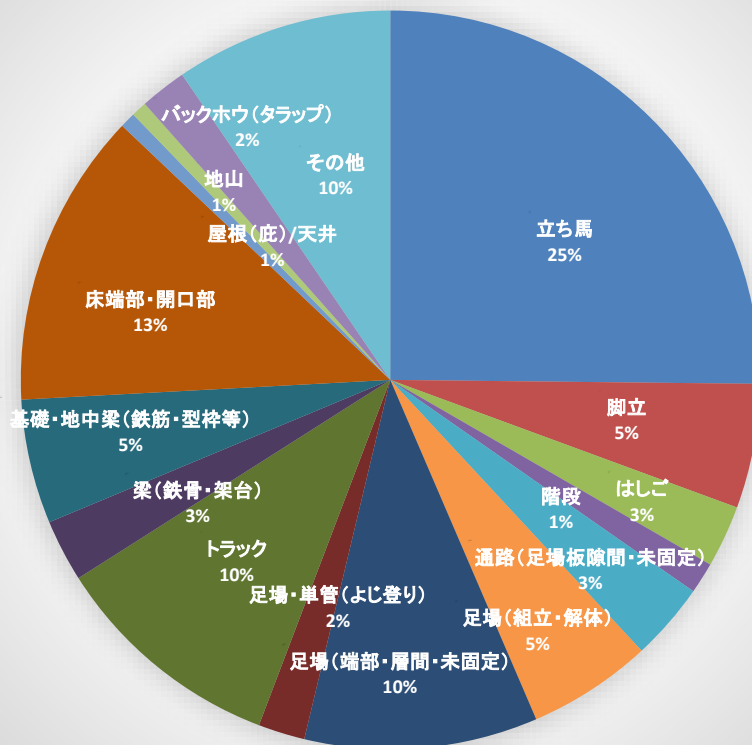
82期～86期		北海道	東北	首都圏	名古屋	北陸	関西	中四国	九州	合計
	件数	2	9	30	14	16	25	10	12	118
	労働時間	4754	11262	41951	14967	13135	21069	10346	10490	127974
	発生率	0.42	0.80	0.72	0.94	1.22	1.19	0.97	1.14	0.92

年平均件数	23.6
-------	------

休業	36
----	----



82期～87期の墜落災害の起因物比率



- ・87期の発生率は過去5年間平均の1.5倍以上となっている。休業災害件数は約2倍のペースで発生していった。
- ・支店別では北海道、首都圏、北陸、九州支店が平均より高くなっている。中でも首都圏支店が全体の4割強を占めた。
- ・過去6年間の起因物では「立ち馬」が25%、「床端部・開口部」「足場(端部・層間・未固定)」「トラック」が多い。特に「床端部・開口部」には床開口養生蓋の設置不備による墜落災害が2年連続発生しており、重篤災害になった。

87期①安全帯を使用しなければならない場所で未使用の作業者が墜落する災害が複数発生した。

(事例: 地中梁上を移動中、手すりの無い層間ブラケット足場を移動中)

87期②立入禁止区画及び表示が不足して危険な場所に立入り墜落する災害が複数発生した。

(事例: 組立又は解体途中の足場から、スラブ型枠端部から、上ってはいけない場所から)